

耳公民館だより



第81号 令和8年5月



最近は鯉のぼりを見かけなくなりましたね。かつては5月が近づくとあちこちであげられて、まるで生きているように泳ぐ姿がこの時期の風物詩でした。

風向と風力の目安にもなっていて、あまり風が強すぎると、我が家へ下ろしに走ったのをおぼえています。この写真は公民館の運営委員さんが送っていただきました。

(ゆうゆうと泳ぐ鯉のぼり：新庄)

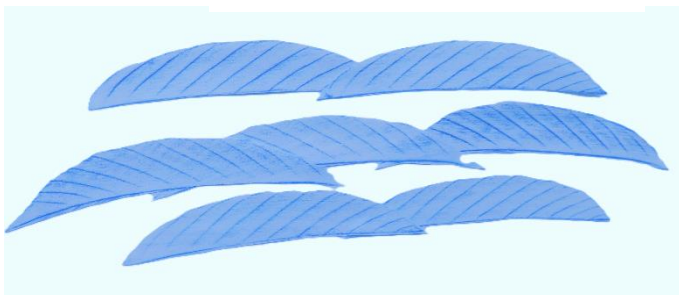
立ち寄り型講座「ふらっと」ニュース

こすり出し(自然のもよう)

葉の裏側や木の断面に紙をあてて色鉛筆でこすると、一本一本の線がくっきりと浮き出てきます。さらに、切り取ったり組み合わせたりして楽しむこともできます。



葉っぱの半分を使って…



同じ葉っぱを4枚色ちがいで使って…

「耳地区の桜」写真展

ただいま開催中！

耳地区の桜の名所の写真、24点を展示しています。
ふだんよく見ているはずの所でも、写真にすると
なかなかの美しい景色です。



新庄分館 整美作業

新庄区の方々によって、中庭や斜面の草刈り、グラウンド
の草むしりが行われました。美しい環境を守っていただき
ありがとうございます。



館長のつぶやき

もよう

葉っぱや木目をこすり出していると、自然が描き出した模様のおもしろさに気づきます。わざと描こうとしてもむずかしいくらいよくできています。

模様というと縄文土器にその名のとおり縄目の模様があることがよく知られていますが、そのぐらい昔から私たちの祖先は模様を取り入れていたわけです。

模様の中でも特定の意味や願いが込められた日本の伝統的な凶案を文様（もんよう）といって、特に江戸時代に盛んに使われるようになりました。

戦乱が終わり平和な時代になると、町人文化が発展して人々がおしゃれを楽しむようになりました。とは言え、幕府からぜいたくを禁じられていたため、どうしたら自分たちの好きな文様を着物のがらに織り込めるか知恵をしばって楽しい暮らし方を考えました。

季節の花鳥風月はもちろんのこと大工道具や漁師のいかりなどもあったそうです。雪の文様を夏の浴衣に使って涼しさを演出したという話もあります。

盆踊りに浴衣を着る文化は今も各地に残っていますが、そのがらをじつと見るとどんな文様が描かれているのでしょうか。私なんかは見るとぐらいでやめとかなないと、浴衣を着て踊るものなら「がらにもない」と言われてしまいました。

おしゃれに縁遠い公民館長としては、季節に合わせて廊下の展示の模様替えをするのが精一杯です。展示のアイデアや作品の情報など皆さんのご協力をお願いします。